町の水道事業の経営戦略を策定しています

▼問合せ　水道グループ☎079（435）2379

経営戦略とは、収益・支出に関する現状の「見える化」、将来の「見える化」、それから長期的に収益と投資のバランスをとるための施策立案を合わせたものです。水道事業を安定的に運営していくためには、現状どうなっているか、将来どうなるかを明らかにし、長期的にみて「収益」と「支出」のバランスを取ることが必要です。

播磨町では、監査法人に委託して経営戦略策定に必要な経営分析を行い、今後の更新計画の策定を現在行っているところです。

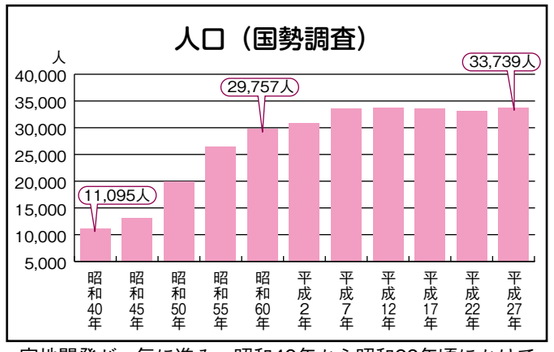
町の水道事業の状況

播磨町では、昭和40年代から人口急増期を迎えるとともに、昭和45年に新島が埋め立て造成され、急増する水需要に対応するため、昭和50年に上水道事業を開始し、昭和52年には簡易水道を統合し完全町営化しております。

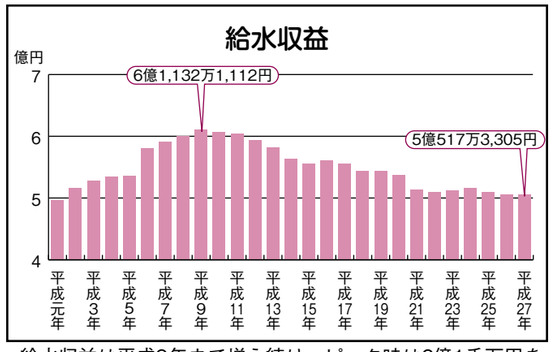
国勢調査結果によると、人口は昭和40年の1万1千095人から昭和60年には2万9千757人となり、20年間で約2・7倍に急増しており、これに対応するために水源（深井戸）の開発、第3浄水場の建設、配水管の布設など急ピッチで進めてきました。特に昭和50年度から昭和54年度にかけて、民間開発も含めて毎年10㌔以上の※導水管、配水管を布設しており、町全体で190㌔以上になっています。

しかし、給水量は平成9年度をピークに節水機器の普及などにより減少に転じ、平成27年度ではピーク時から約18・5％減少しています。

※導水管　井戸からくみ上げた原水を浄水場に送るための管のことを言います。

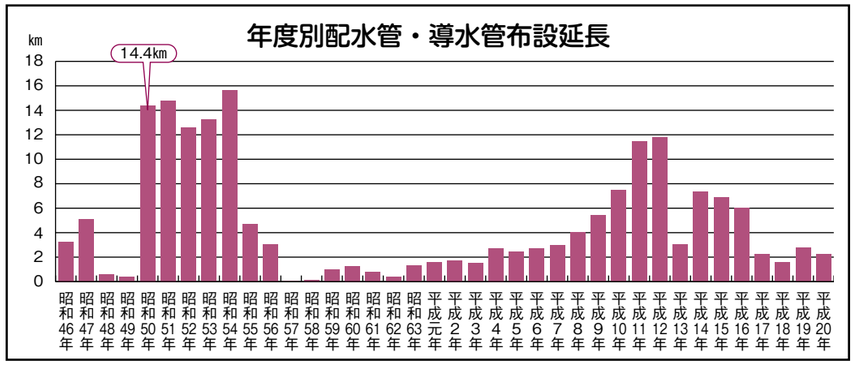


宅地開発が一気に進み、昭和40年から昭和60年頃にかけて人口が急増しています。



給水収益は平成9年まで増え続け、ピーク時は6億1千万円を超えましたが、平成27年度には、5億517万3,305円となり、1億円以上の減収になっています。

昭和50年代前半は民間開発や町が行った基幹管路の整備などで一気に配水管の整備が行われました。
平成に入ってからは、下水道の布設に伴い、配水管の布設替を行っています。



経営状況

平成27年度決算では、6千948万594円の黒字になりましたが、これは、平成26年度の会計制度の見直しにより計上することになった※長期前受金戻入の影響によるもので、以前と比べて経営状況が改善されたというわけではありません。水道事業の借入金である企業債については、平成11年度を最後に借入を行っておらず、残高は12億6千900万9201円となっています。一方で、現金預金と保有する国債などの債券を合わせると13億円以上を有しており、現時点では資金繰りには問題はない状況です。

※長期前受金戻入　償却資産の取得または改良に伴い収入する工事負担金などを「長期前受金」として負債（繰延収益）に一旦計上し、その中から当該年度の減価償却見合い分を収益化したもの。収益として計上していますが、資金の裏付けはありません。

今後の見通し

国立社会保障・人口問題研究所によると、今後全国的に人口減少が見込まれており、播磨町においても人口減少が続き、40年後には3割以上人口が減少する推計が出ています。人口減少に伴い、給水量は減少が続くことが見込まれますが、一方で更新しなければならない施設や配水管は今後増加し、経営状況は一気に悪化するものと考えられます。配水管は、法定耐用年数の40年を経過する管がすでに出てきており、これから30年ほどでほぼすべての配水管を更新していかなければなりません。

今後、基幹管路や耐震性の低い管を優先に耐震管に計画的に更新していかなければなりませんが、膨大な更新費用が必要となり、その財源の確保が課題となっています。

水道施設の耐震化

地震など大規模な災害が起こると、浄水場施設や水道管が被害を受け、多くの世帯で断水になる可能性があります。

播磨町では大きな地震が起きても被害を最小限に抑えるため、浄水場施設の耐震化や水道管を耐震管に更新する工事を進めています。

耐震管にするとどうなるの？

古い水道管は、地震が起きると継手が抜けたり、管体が壊れたりします。

耐震管は、管体が壊れたり、継手が抜けたりしません。

※引用：日本水道協会（水道PRパッケージ）

水道管の凍結にご注意を！

昨年の1月25日には強い寒気の影響で、水道管の凍結により水が出なくなったり、破裂したりして町への問い合わせが50件ほどありました。特に露出している水道管や給湯器の配管からの漏水が多発しました。一般的に気温がマイナス4度以下になると、水道管が凍結すると言われています。（日当たりの悪い所や風が吹き付ける場所にある水道管はマイナス1～2度でも凍結することがあります）

早めに防寒の準備をしておきましょう

●防寒の方法

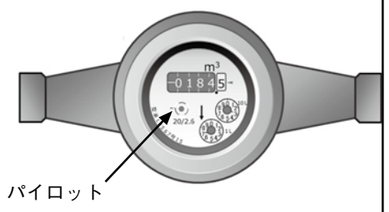
屋外の蛇口が破裂しやすいので、保温材を巻きましょう。毛布や布で代用できます。

また、夜間に少量の水を流し、浴槽やバケツなどにためておくようにすると凍結しにくくなります。

●凍って水が出ないとき

気温が上がり自然にとけるまで待つか、凍結部分に、ぬるま湯をかけてゆっくりと融かしましょう。

（注）水道管や蛇口が破裂することがありますので、絶対に熱湯をかけないでください。

●水道管が破裂したとき

水道メーターのパイロットが回っているのを確認し、止水栓を閉めて水を止めます。播磨町の指定給水装置工事事業者に修理を依頼してください。修理に要する費用はお客様の負担となります。